平成22年度 第19回 新潟県建築士事務所協会 建築作品賞

高田建築設計事務所「バナキュラーな家」が最優秀賞

23年度日事連建築作品展住宅部門に推薦

平成22年度第19回㈳新潟県建築士事務所協会建築作品賞の審査が、今年の3月8日、事務所協会役員室で行われた。最優秀賞1点、優秀賞1点、奨励賞2点が選定され、平成23年度同協会通常総会冒頭、受賞者にそれぞれ表彰状が授与された。（写真）

地濃教授

審査を行ったのは、西村伸也新潟大学副学長、地濃茂雄新潟工科大学教授、野水祥一新潟県土木部都市局建築住宅課長、川ノ口信一㈳新潟県建築士会会長、中村優晴㈳新潟県建築士事務所協会会長、松田道佳㈳新潟県建築士事務所協会技術委員長の委員6名。

当初は、各賞1点ずつの予定で選定が進められたが、奨励賞は2作品の評価が僅差ということから、2点が選ばれた。

審査員の評価は高く、今回応募されたどの作品も、新潟の風土・文化の特徴を巧みに取り入れ、工夫された質の高いものとなっており、新潟県の建築設計事務所の活動と所属する設計者全員の高い技術力と熱意が、優れた成果として表れた形となった。

なお最優秀賞に選ばれた住宅部門「バナキュラーな家」は、日事連建築作品展への推薦作品となる。

以下、受賞4作品と講評を紹介する。

◎最優秀賞
「バナキュラーな家」（住宅部門）
㈱高田建築設計事務所

敷地に角度をずらした二つのキューブを組み合わせた住宅である。この角度のずれが内部空間に極めて居心地のいい土間、広々とした居間、外部空間の多様な表情を創り出すことに成功している。

南の陽を受けて育つ植物で彩られた土間、暖炉の煙突に沿って上がる階段、居間と土間を見下ろすロフトには、それぞれの内部と外部とが融合されて家族の楽しい生活の場面が見えるようである。

特にディテールの一つ一つ、材料の選定、家具の選択と配置にも細かな配慮と優れたデザインが込められており、秀逸な建築作品であると高く評価された。

◎優秀賞
「聖徳保育園」（一般建築）
㈱S・U建築設計

子どもに優しい越後杉をたくさん使った気持ちのいい保育園である。

敷地の制限を逆に生かして、リニアに並ぶ4つの保育室全体が可動間仕切りでその大きさを変えられるように計画されている。

少しふった遊戯室と保育室との空間、食育のために玄関に面する調理室、保育室を取り囲むウッドデッキなど、子どもたちの多様な活動が丁寧に考えられた優れた作品であると評価された。

◎奨励賞
「第四銀行高田営業部」（都市部門）
㈱植木組
1級建築士事務所

通りに向かって綺麗なプロポーションを持つファサードが魅力的な建築作品である。

雁木のモチーフ、縦長のフィンを組み込んだ意欲的な建築作品となっている。

◎奨励賞
「秋山孝ポスター美術館 長岡」（都市部門）
㈱高田建築設計事務所

1925年に建築された銀行のリノベーションである。

時を経た外壁はその当時の建築技術の高さを感じさせ、まちづくりの一環としての活動に適した空間がつくられていることが評価された。

H23／総会

次なる半世紀への第一歩

協会の事業及び組織はどうあるべきか、見つめ直す時期

中村会長

新潟県建築士事務所協会

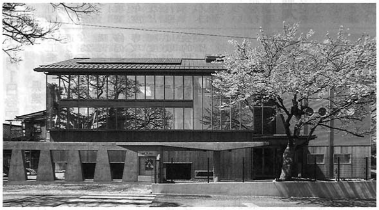
㈳新潟県建築士事務所協会
平成23年度通常総会

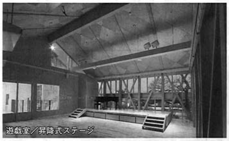
新潟県建築士事務所協会は5月18日、長岡市内で平成23年度通常総会を開催し、22年度事業報告、収支決算、23年度事業方針・事業計画案及び予算案など9議案を審議し、それぞれ原案通り議決した。

第19回建築作品賞の表彰式も行われ、最優秀賞の高田建築設計事務所を

優秀賞　〈一般建築〉

聖徳保育園




遊戯室／昇降式ステージ

■設計にあたって

しょうらいずっとこの場所で永遠に子どもたちと過ごしたい想いと裏腹に、この地の建築制限は非常に厳しく、それを制限の諦観に終わらず積極的なアイデアで、それを感じない建築を目指した。

うつりゆく四季の中で育まれた越後杉などの木質材を多用し、その特徴と環境を考慮した園舎は、大切な桜の木を保存し、東西の敷地境界に沿う形で佇んでいる。

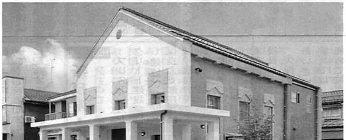
とにかく、限られた面積を有効利用するため、2階は可動間仕切壁フレキシビリティに配慮した。遊戯室は昇降式ステージ、更に東側隣地の園庭を取り込むガラス壁とすることで、スペース以上の広がりが現れ、屋上はデッキ敷の空中庭が開放感を与える。面積制限のためにできた1階テラスは、トップライトから建物を貫通し光を落す工夫をした。また東面は象徴的な朱いカーテンウォールを持ち、これは旧園舎の特徴だった朱い屋根を継承している。

くふうにより制限を感じない豊かな空間、小さな建築で得る大きな体感。負は負でない積極的な建築となった。

株式会社 S.U 建築設計
代表取締役社長　角南邦彦
本社　新潟市中央区関新1-4-10　電話025（265）6666　FAX025（265）6655

奨励賞　〈都市部門〉

秋山孝ポスター美術館 長岡


正面入口（西側）は「美の壁」

第１回美術館大学活動

■設計にあたって

大正15年から（計画時85歳）生きてきた建築は、当初銀行であった。その後、商店倉庫に。そして現在、美術館としてリザレクション（復活）・リスタート（再出発）した。

当建設地は醸造業の町摂田屋と隣接している。長岡市は第次大戦の戦火を受けたが、酒業への延焼を食い止めた価値ある建築でもある。中越地震にも耐えた。

使命を終えた建築物は去るのみ！の風潮のなか、奇跡的に粒の火種が起きた。

有志が集まり歴史的建造物であ調査と復興資金援助を得て、サポーター倶楽部を立ち上げた。

地元出身のアーティスト兼教育者である秋山孝氏の美術館としてのリノベーション構想である。

大切なのは「もの」だけでなく、活動する「こと」が重要！ハードとソフト両面からのプロジェクトであった。美術館（ハード）＋美術館活動（ソフト・運営）。豊かな街は歴史があり、美がある。

その歴史と美が、次の世代に継承されるステージ（居場所）としてのリノベーションであった。

最優秀

バナ

居間（今）と土間（時間）

塔（山）と箱（平地）の組み合わ

“これから”を結ぶ中間帯である“今”＝居間。

「時間」：土間に設けられた植栽は、太陽光と土がもつエネルギーを時の営みの中に成長をする。

「空間」：デザインはシンプルに！空間は流れるように！

株式会社 高
代
本社　長岡市摂田屋

奨励賞

第四銀

銀行の御担当者様をはじめとする携わられた全ての方々に対してのものあり、それを代表して当社が受賞させいただきましたことに心より感謝申しげます。